

CTガイド下肺針生検・気胸ドレナージ

YS針シリーズ

TYPE-YS NEEDLES SERIES

気胸ドレナージ用
トラセンタ YSYSタンDEMホルダー
※現在は販売していません吸引生検およびガイド針
吸引細胞穿刺針 YS

トラセンタ YS

医療機器承認番号：20800BZZ00202000 管理医療機器 胸部排液用チューブ

吸引細胞穿刺針 YS

医療機器承認番号：20100BZZ00833000 管理医療機器 単回使用吸引用針

特長

● 吸引細胞穿刺針 YS

- ・刃先は刺入時に直進性が得られる形状です。

◀ 吸引細胞穿刺針 YS
先端形状

- ・メモリ・メルクマールで刺入距離の確認ができます。

● トラセンタ YS

- ・カテーテルは柔軟性があり、先端にはサイドホールを設け高いドレナージ効果が得られます。
- ・針先は刺入性を確保し刃長を短くすることにより、穿刺時における肺穿刺の危険性を最小限に抑えます。
- ・三方活栓があらかじめ接続されていますので、簡単に回路を閉鎖、または切り替えることができます。

YS針シリーズは、日本医科大学 放射線科 客員助教授
篠原義智先生と弊社の共同開発によるものです。

使用方法

吸引細胞穿刺針 YS (CTガイド下肺針生検用)

- 1) 術前準備：通常のCTガイド下経皮的生検の手技（消毒、麻酔を含む）に準じて行う。吸引生検には、吸引細胞穿刺針 YS（以下、穿刺針）の20Gを使用する。
- 2) 病変部位を中心とし上下数枚を5mm厚スライスで撮像し、穿刺針の穿刺に最も適したCTスライスを決定する。
- 3) 決定したスライス位置でガントリー内のポジショニングポインタを投影し、体表にマーキングを行う。
- 4) 穿刺深さの計測、刺入部位と経路を決定する。
- 5) タンDEM変法により穿刺する。
- 6) CT像で穿刺針の先端部が病変部位の直前であることを確認する。
- 7) 吸引手技を行う。

トラセンタ YS (気胸ドレナージ)

- 1) 背臥位で第3肋間、鎖骨中線上に刺入点を決定し、マーキングを行う。
- 2) 皮膚面を広範囲に消毒し、局所麻酔を施した後、第4肋骨直上に小切開を加える。
- 3) トラセンタYSを切開部より斜め上方に第3肋骨の上を經由して胸腔腔に静かに刺入する。この際シリンジが吸引されれば先端が胸腔内にあることが確認できる。
- 4) 内針を固定し、カテーテルのみをその先端が肺尖近くに達するまで送りこむ。その後、内針を抜去する。カテーテルの挿入・留置位置を胸部エックス線写真（正面・側面）で確認する。
- 5) 市販の延長チューブを介して吸引操作を行う。2~3回軽く咳をさせ弁の動きから脱気機構が正常に働いていることを確認する。
- 6) カテーテルを縫合固定する。必要により持続吸引装置に接続する。

* 手技に際しての皮膚消毒、局所麻酔、患者への呼吸指示、具体的な生検操作などについては、参考文献を参考にしてください。

参考文献：篠原義智、渡部英之、他：CTガイド下肺針生検—特にその適用とTandem変法について—、日胸45、120：120-125、1986
 篠原義智 著：CTガイド下肺生検とその応用手技の実際：新興医学出版社、1996
 篠原義智、隅先達夫、他：CTガイド下針生検を正確、簡便に行うための穿刺補助器具の開発、第59回日本医学放射線学会 Vol.60 No.2 P6

仕様

「*」は準規格品です。

製品名	製品コード	サイズ	包装形態
吸引細胞穿刺針 YS	22410610	18G×100mm メモリ・メルクマール付	1箱10本入、1本毎ピールオープン包装 EOG滅菌済
吸引細胞穿刺針 YS	22410620*	20G×150mm メモリ・メルクマール付	
トラセンタ YS	22112100	7Fr×150mm 三方活栓付	1箱5本入、1本毎ピールオープン包装 EOG滅菌済

本製品をご使用になる前に、製品の注意事項等情報（電子添文等）の内容を必ずご確認ください。
 注意事項等情報には、「禁忌・禁止」事項や使用方法、使用上の注意等重要な事項が記載されています。